

対話  
テーマ  
1

## 地域のつながりに関すること

**渋谷さん (20代、女性)**：町内会の夏祭りは夏の風物詩ですが、数年前から参加者が少なくなってきました。お祭りが衰退したことで、地域の関わりが減ったように思います。参加者が少ないまま地域のお祭りを存続していけるのでしょうか。



**谷口さん (30代、男性)**：孤独死をなくしていくためには、隣近所の顔が見える地域をつくっていくことが大切ではないかと思います。高齢者が集まれる場所や子どもを預けられる場所、大学に福祉や子育ての学部ができれば、産学官の協力関係の中でそのような地域をつくっていけるのではないのでしょうか。

**國田さん (60代、男性)**：難病を抱えた子どもの子育てに悩む親とボランティアとのコミュニケーションの場が必要だと考えます。また、親をサポートする体制には、行政ばかりでなく地域住民が積極的に参画することが必要だと思います。



**上田市長**：皆さんは、いい関係を作っていく場所、知恵を共有するネットワークをどう築けばいいか、それぞれの立場で考えていらっしゃるんですね。市にはボランティア、市民活動、地域活動について対応する中核の組織として、87カ所の「まちづくりセンター」があります。そこにはさまざまな情報と活動を支援する窓口が集まっています。市民の皆さんにいつでも質の高い情報を提供できるよう努力していますので、ぜひご活用ください。

対話  
テーマ  
2

## 母子・児童に関すること

**鳥丸さん (40代、女性)**：女性、特にシングルマザーが、人並みの働き方や生活ができるようにしてほしいと思います。シングルマザーが安心して働ける環境を整えるためには、保育施設の整備など、まだまだやれることはたくさんあると思います。



**上田市長**：札幌市では、女性のために、就労スキルを得るためのサポートや職業紹介の窓口を充実させているところです。企業に対しては、女性が働きやすい環境づくりや、女性の力が必要だという認識を持ってもらえるよう、熱心に取り組んでいきたいと思っています。



**水澤さん (30代、女性)**：産休明けにすぐ復職しましたが、区役所に子どもの保育所入所の手続きに行ったところ、入所できる2週間前に連絡しますと言われました。せめて1カ月くらい前までにお知らせいただけるとありがたいと思います。



**本間区長**：保育所との調整に時間がかかったり、申込日と入所希望日の間隔が短いときなどにはお知らせまでに1カ月を切ってしまう場合もあります。区役所に保育コーディネーターを配置し、より丁寧な説明をしていきます。



## ふらっとホームでの発言から生まれた施策

◎手稲区を、花を通じて安らげるまちにできないでしょうか (平成23年度の発言)

☞手稲を訪れる人におもてなしの気持ちを表すため、区在住のタウンガーデナー協力のもと、JR手稲駅南口ロータリー内に花壇を作成。また、小学生が育てた花苗を植えたプランターとともに、「ていぬ」の形をした苅のトピアリーも設置しました。



◎夜でも冬でも女性が安心できるウォーキングのコースを作してほしい (平成21年度の発言)

☞平成22年7月に「手稲区ナイトウォーキング」を実施。その実施結果を踏まえ、歩いたコースをモデルコースに、バス路線やもしものときの避難場所となるナイトウォーキング協力店等の情報を掲載したマップを作成しました。

